

「アディクションと人間関係」

横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻・医学部看護学科

松下 年子

アディクションとは「あるものを特に好き好む癖」を意味し、ある対象、物質、人、行為に対して「のめり込む」ないし「はまる」こと、加えてその「のめり込み」をコントロールできなくなり、本人または周囲の者に支障が出ている状態をいう。物質依存の代表はアルコール使用障害であるが、酩酊がもたらす「一体感」と「万能感」に溺れるアルコール使用障害者の多くは、対人関係障害や低い自尊心ゆえの生きづらさを抱えていると指摘されている。また、「依存心は強いが信頼心は乏しい」という病的な甘えの心理を持っているともいう。次に、人への依存の典型例は共依存であるが、共依存は、例えばアルコールに依存する夫を支配（イコール世話）することで、充実感を得る妻と、妻を心配させることで妻を支配しつづけるという2者関係を指す。共依存の人は、依存症者が対象に依存するのを結果的に可能にさせている人、イネイブラーでもある。共依存という言葉は、アメリカのアルコール臨床の中で、「依存症者の妻は、働かずに泥酔して暴力を振るう夫となぜ離婚しないのか？」という疑問に端を発して生まれた。依存症と共依存はコインの表裏の関係にあり、依存症者が共依存になることもあれば、その逆もあり得る。互いに相手の自立を妨げることになる。次に、行為に対する依存として近年、特に着眼されているのがギャンブル障害とゲーム障害である。いずれもアルコールや薬物使用障害と異なり、身体的な侵襲が少ないためにその分、確実に進行していく。身体的な支障は顕著でなくとも、経済的破綻や生活障害に陥りやすく、家族も巻き込まれていく。以上のように依存対象は多様であるが、依存する心性の底辺には人への依存、すなわち対人関係障害があり、それが時に、アルコールや薬物、ギャンブルというように小手先を変えて表出されていくといわれている。なお、人間関係の基本は家族関係である。当日は、家族を最小のシステムとみなして対応するシステムズ・アプローチのことで、人間関係における生きづらさ、アディクションからの回復についても述べたい。